

施策の方向 1-2 地域のエネルギー資源の有効かつ効率的な利用の促進

指標	目標・現状・指標がめざす方向
太陽エネルギー (太陽光・熱) 利用量	【目標】 2020年度までに2005年度比30倍とすること 【基準年度】 太陽光発電設備容量：3,069kW ほか(2005年度) 【指標がめざす方向】 多いほうが良い

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
■指標：太陽エネルギー(太陽光・熱)利用量 住宅用太陽光発電設備設置補助は累計5,310件 19,036kW (対前年度：増加、対基準値：多い)	3*	3

現状

■太陽エネルギー(太陽光・熱)利用量

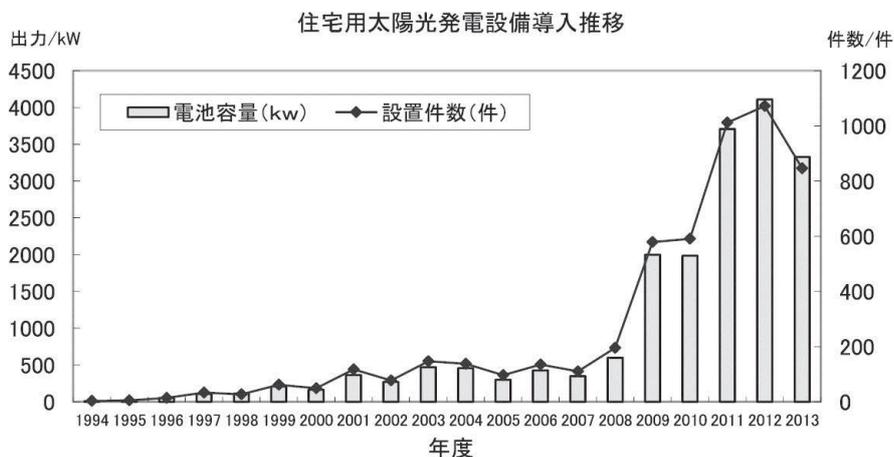
(1) 現状・課題

本市のエネルギー消費の特徴として、臨海部の産業部門での消費が市全体の約7割を占めることがあげられます。

再生可能エネルギー源の利用は、エネルギーの利用段階で温室効果ガスをほとんど排出せず、地球温暖化対策の推進にも大きく貢献します。特に、太陽光、太陽熱といった再生可能エネルギー源は、特定の地域に偏在しているものではなく、地球上であればどこでも利用できることから、「地産地消のエネルギー」といった特性を有しており、本市でもその重要性を認識し、導入促進を行っています。

(2) 再生可能エネルギー源の利用設備の導入状況等

本市では、2006年度から住宅用太陽光発電設備設置補助を実施しています。住宅用太陽光発電設備導入実績については5,310件、19,036kW(2013年度末実績)となっています。



さらに、2011年度からは、住宅用太陽熱利用設備設置補助を開始し、太陽エネルギーの普及促進を行っています。

また、公共施設への太陽光発電設備設置について、率先導入を行い、これまでの累計で75施設に導入しています。

さらに、大規模なエネルギー消費地域である本市の場合、こうした電力を積極的に活用し、他地域での普及を需要側から推進するため、グリーン電力証書の利用を推進しています。

【グリーン電力使用実績】

用途	2013年度購入量	累計
本庁舎等	445,000 kWh	3,019,000 kWh
イベント(CCかわさき環境ミーティングなど)	10,700 kWh	68,290 kWh

(3) エネルギーの有効利用

○未利用エネルギー等の利用

現在行われている公共施設の排熱利用としては、ごみ焼却施設における発電及び温水プールへの供給、入江崎総合スラッジセンターにおける下水汚泥焼却熱の温水プール等での利用が行われています。

- ・廃棄物エネルギー 4か所
- ・下水熱エネルギー 2か所

○コージェネレーション*

公共施設におけるエネルギーの効率的な利用の推進を図るために、多摩区総合庁舎、川崎病院、南部生活環境事業所に続き、2005年度に多摩病院にコージェネレーションシステムを導入しました。